

注3

大学番号：私268

[平成27年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

立命館大学 薬学部 創薬科学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 立命館
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 薬学部事務室

職名・氏名 ジムチョウ タカミザワ アツシ
事務長 高見澤 篤

電話番号 077-561-2563

（夜間） 077-561-2563

F A X 077-561-2564

e-mail mlst-ri-kai2@ml.ritsumeit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

薬学部

＜創薬科学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	20
6. 留意事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 立命館

(2) 大学名 立命館大学

(3) 大学の位置

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1丁目1番1号

(〒604-8520 京都府京都市中京区西ノ京東栞尾町8番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナガタ トヨオミ) 長田 豊臣 (平成19年2月)		
学長	(カワグチ キヨフミ) 川口 清史 (平成23年1月)	(ヨシダ ミキオ) 吉田 美喜夫 (平成27年1月)	任期満了のため変更、平成27年1月1日(27)
学部長	(イマムラ ノブタカ) 今村 信孝 (平成26年4月)		
副学部長	(イナヅ テツヤ) 稲津 哲也 (平成26年4月)	(アサノ シンジ) 浅野 真司 (平成28年4月)	選任のため変更(28)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
薬学部 創薬科学科 学士(薬科学)	4年	60人	- 年次人	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	60 (-) [0]	-	60 (-) [0]	-	() () [] []	0.83倍				
志願者数	473 (-) [0]	- (-) [-]	509 (-) [0]	- (-) [-]	() () [] []					
受験者数	458 (-) [0]	- (-) [-]	496 (-) [0]	- (-) [-]	() () [] []					
合格者数	259 (-) [0]	- (-) [-]	275 (-) [0]	- (-) [-]	() () [] []					
B 入学者数	46 (-) [0]	- (-) [-]	54 (-) [0]	- (-) [-]	() () [] []					
入学定員超過率 B/A	0.76		0.90							

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[0] (-) 46	[-] (-) -	[0] (-) 54	[-] (-) -	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[0] (0) 44	[-] (-) -	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	[0] (-) 46		[0] (0) 98		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 授業科目の概要

<薬学部 創薬科学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目	英語P1	1前	1									兼 5 4 1	所属学部の都合により担当者増(28) 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	英語P2	1後	1									兼 5 4 1	所属学部の都合により担当者増(28) 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	英語P3	2前	1									兼 4 1	教育課程充実のためのクラス増に伴う教員追加(28)
	英語P4	2後	1									兼 4 1	教育課程充実のためのクラス増に伴う教員追加(28)
	英語S1	1前	1									兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	英語S2	1後	1									兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	英語S3 英語S4	2前 2後	1 1									兼 兼 1 1	
教養科目	哲学と人間	1・2・3・4後		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	人間性と倫理	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	心理学入門	1・2・3・4後		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	論理と思考	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	社会思想史	1・2・3・4後		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	科学技術と倫理	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	ジェンダー論	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	宗教と社会	3・4後		2								兼 1	
	メンタルヘルス	3・4後		2								兼 1	
	社会学入門	1・2・3・4前		2								兼 1	
	文化人類学入門	1・2・3・4前		2								兼 2 1	所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	文学と社会	1・2・3・4後		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	現代の教育	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	世界の言語と文化	1・2・3・4前		2								兼 2 4 1	所属学部の都合により教員減(28) 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	美と芸術の論理	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	メディアと現代文化	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
	現代社会と法	1・2・3・4後		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)
市民と政治	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)	
経済と社会	1・2・3・4前		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)	
企業と社会	1・2・3・4後		2								兼 1	所属学部の都合により担当者変更(27)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
教養科目	日本国憲法	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	現代日本の政治	1・2・3・4前		2								兼 兼 4 教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	現代の国際関係と日本	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	現代の世界経済	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	現代の経営	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により教員減(28) 兼 2 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	社会と福祉	1・2・3・4後		2								兼 2 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	災害と安全	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	新しい日本史像	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	中国の国家と社会	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	東アジアと朝鮮半島	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	ヨーロッパの歴史	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	アメリカの歴史	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	イスラーム世界の多様性	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	宇宙科学	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	地球科学	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	科学と技術の歴史	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	科学・技術と社会	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	情報技術と社会	1・2・3・4後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	平和学入門	1・2・3・4後		2								兼 3 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のため担当者増(27)
	現代の人権	1・2・3・4前		2								兼 2 所属学部の都合により担当者変更(27)
	日本の近現代と立命館	1・2後		2								兼 10 教育課程充実のための教員追加(28) 兼 9 所属学部の都合により担当者変更(27)
	戦争の歴史と現在	1・2・3・4前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	国際平和交流セミナー	1・2・3・4後		2								兼 3 所属学部の都合により担当者変更(27)
	英語とアメリカ文化(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2								兼 1
	異文化理解セミナー(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2								兼 1
	文化・社会調査(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2								兼 1
	アメリカ社会(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2								兼 1
	日豪関係Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	日豪関係Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
	日豪関係Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)
日豪関係Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
平和学Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1								兼 1 全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)	
平和学Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1								兼 1 全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)	
平和学Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1								兼 1 全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	平和学Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	平和学Ⅴ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅴ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅵ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	環境と人間Ⅶ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
	言語・文化・社会AⅠ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	集中
	言語・文化・社会AⅡ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅢ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅣ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅤ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅥ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅦ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅧ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅨ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	言語・文化・社会AⅩ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2							兼	1	
	英語UBC・JP作文	2・3・4前		2							兼	1	
	カナダ研究(海外留学プログラム)	2・3・4前		4							兼	1	
	異文化間コミュニケーション(海外留学プログラム)	2・3・4前		4							兼	1	
	環太平洋研究(海外留学プログラム)	2・3・4前		4							兼	1	
	言語・文化・社会BⅠ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅡ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅢ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅣ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅤ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅥ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅦ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅧ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅨ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩⅠ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩⅡ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩⅢ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩⅣ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩⅤ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会BⅩⅥ(海外留学プログラム)	2・3・4前		2							兼	1	
	言語・文化・社会CⅠ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の追加(28)
言語・文化・社会CⅡ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の追加(28)	
言語・文化・社会CⅢ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の追加(28)	
言語・文化・社会CⅣ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5							兼	1	全学の海外留学科目の再編による、科目の追加(28)	
海外スタディ	1・2・3・4後		2							兼	1		
海外スタディ	1・2・3・4後		4							兼	1		
日本の社会	1・2・3・4前		2							兼	1	留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
日本の文化	1・2・3・4前		2							兼	1	留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
日本の経済	1・2・3・4前		2							兼	1	留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
日本の経営	1・2・3・4前		2							兼	1	留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教		助手	
教養科目	日本の自然	1・2・3・4前	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本の科学技術	1・2・3・4前	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本事情特殊講義	1・2・3・4前	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本事情入門Ⅰ	1・2・3・4前	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本事情入門Ⅱ	1・2・3・4後	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本語学Ⅰ	2・3・4前	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本語学Ⅱ	2・3・4後	2									留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)	
	日本の文化・地理・歴史	1・2・3・4後	2										全学の留学生科目の再編による、科目の追加(28)
	日本の社会・政治	1・2・3・4後	2										全学の留学生科目の再編による、科目の追加(28)
	日本の経済・経営	1・2・3・4後	2										全学の留学生科目の再編による、科目の追加(28)
	日本の自然・科学技術	1・2・3・4前	2										全学の留学生科目の再編による、科目の追加(28)
	留学生数学Ⅰ	1・2・3・4前	2										留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	留学生数学Ⅱ	1・2・3・4後	2										留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	留学生物理Ⅰ	1・2・3・4前	2										留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	留学生物理Ⅱ	1・2・3・4後	2										留学生対象 全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	地域参加学習入門	1・2・3・4前	2										所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	シチズンシップ・スタディーズⅠ	1・2・3・4通	2										教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)
	シチズンシップ・スタディーズⅡ	2・3・4前	2										
	現代社会のフィールドワーク	1・2・3・4後	2										所属学部の都合により担当者変更(27)
	ソーシャル・コラボレーション演習	2・3・4後	2										
	全学インターンシップ	2・3・4後	2										教育課程充実のための教員追加(28)
	学びとキャリア	1・2・3・4前	2										
	仕事とキャリア	2・3・4前	2										
	社会とキャリア	3・4後	2										
	スポーツの歴史と発展	1・2・3・4前	2										所属学部の都合により担当者変更(27)
	スポーツと現代社会	1・2・3・4前	2										所属学部の都合により担当者変更(27)
スポーツのサイエンス	1・2・3・4後	2										教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
教養科目	現代人とヘルスケア	1・2・3・4後		2								兼 1 教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)	
	スポーツ方法実習Ⅰ	1・2・3・4前		1								兼 13 14 4 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)	
	スポーツ方法実習Ⅱ	1・2・3・4後		1								兼 12 4 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)	
	教養ゼミナール	1・2・3・4前		2								兼 24 46 4 教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加(27)	
	ピア・サポート論	2・3・4後		2								兼 5 4 教育課程充実のための教員追加(28)	
	海外フィールドスタディ	1・2・3・4後		2								兼 1	
	海外フィールドスタディ	1・2・3・4後		4								兼 1	
	APU交流科目	2・3・4		2								兼 1	
	APU交流科目	2・3・4		4								兼 1	
	異文化間テーマ演習	1・2・3・4後		2								兼 1 教養教育課程充実のための、科目追加(28)	
基礎科目	数学A(微分法)	1前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	数学B(積分法)	1後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	数学C(線形代数)	1前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	数学D(確率・統計)	1後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	数学演習A	1前		1								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	数学演習B	1後		1								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	物理学A	1前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	物理学B	1後		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	生物科学	1前		2								兼 1 所属学部の都合により担当者変更(27)	
	情報処理演習	1前		1			1					兼 1 オムニバス	
日本語表現法	1前		2								兼 1		
薬学導入科目	創薬科学基礎演習	1前	1			2 4	2		1			兼 2 3 教育課程充実のため担当者増(28)	
	創薬研究概論	1後	2			3 2	1					教育課程充実のため担当者増(27) 担当：北村 佳久(教授)	
専門英	英語JP1	3前	2									兼 1	
	英語JP2	3後	2									兼 1	
専門科目	化学系薬学	有機化学A	1前	2								兼 1	
		有機化学B	1後	2								兼 1	
		有機化学C	2前	2				1					
		有機化学D	2後	2									兼 1
		物理化学A	1前	2									兼 1
		物理化学B	1後	2				1					兼 1
		物理化学C	2前	2		2							兼 1
		分析化学A	1前	2			1						兼 1
		機器分析化学	1後	2			1						兼 1 教育課程充実のための教員追加(28)
		分析化学B	2前	2			1						
		医薬品製造学	3前	2				1					
		生体分子解析法	3前	2									兼 1
		構造生物学	3後	2					1				
		生薬学	2前	2									兼 1
		天然物化学	2後	2									兼 1
		有機分子解析法	2前	2		2							兼 1
放射化学	2後	2		2			1				兼 2		
和漢薬論	3後	2		2							兼 1		
合成化学	3後	2		2			1				兼 1		
化粧品学	4前	2		2							兼 1		
生物系薬学	人体の構造と機能A	1後	2									兼 1 2 隔年担当のため、1名担当なし(27)	
	人体の構造と機能B	2前	2									兼 1	
	生化学A	1後	2									兼 1	
	生化学B	2前	2									兼 1	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
生物系薬学	微生物学	2後	2									兼 1	オムニバス 時間割編成および教員体制の都合による開講期間変更(28) 所属学部の場合による担当者変更(28) オムニバス形式での授業のため、担当者追加(28)
	分子生物学	2前	2			1						兼 1	
	公衆衛生学	2前	2			1						兼 1	
	生物統計学演習	2後 2前	1				1		1			兼 3	
	細胞生物学	2前	2				1					兼 1	
	プロテオミクス	3前	2									兼 1	
	薬理学A	2後	2									兼 1	
	薬理学B	3前	2									兼 1	
	薬理学C	3後	2			1						兼 1	
	免疫学	2後	2									兼 1	
	環境衛生学	3前	2			1						兼 1	
	病態学A	2後	2									兼 1	
	病態学B	3前	2									兼 1	
	衛生化学	2後	2			1						兼 1	
	毒性学	3後	2									兼 1	
	バイオインフォマティクス	3前	2									兼 1	
	システムバイオロジー	2後	2									兼 2	
	ゲノム創薬科学	4前	2			1						兼 1	
	ケミカルバイオロジー	2前	2									兼 1	
	食品工学	4前	2									兼 1	
再生医療学	3後	2			1						兼 1		
分子神経科学	3後	2						1			兼 1		
免疫薬品学	4前	2									兼 1		
医療系薬学	製剤学・物理薬剤学A	2後	2									兼 1	オムニバス
	製剤学・物理薬剤学B	3前	2									兼 1	
	病原微生物学	3前	2									兼 1	
	生物薬剤学	3前	2									兼 1	
	日本薬局方概論	3前	2									兼 1	
	薬物動態学	3後	2									兼 1	
	薬物治療学A	3前	2									兼 1	
	医薬品情報学	3後	2									兼 1	
	薬物治療学B	3後	2									兼 1	
	臨床薬剤学A	3後	2									兼 1	
	薬物治療学C	4前	2									兼 1	
	薬事法規・薬事制度	4前	2									兼 1	
	医療倫理	4前	2									兼 1	
	薬物送達学	3後	2									兼 1	
	薬物治療学D	4前	2									兼 1	
医療薬学	4前	2									兼 1		
漢方医療薬学	4前	2									兼 2		
薬学系	医薬品開発論	4前	2			1						兼 1	
	臨床試験概論	4後	1									兼 1	
	医療統計学	4後	1									兼 1	
実習	分析化学実習A	1後	1			2 3			1			兼 6 4	教育課程充実のため教員追加(28) 教育課程充実のため担当者増(27)
	分析化学実習B	1後	1			1 2 4	1		1			兼 9 7 2	教育課程充実のため教員追加(28) 所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のため担当者増(27) 担当：北村 佳久(教授)
	物理化学実習A	2後	1				1		1			兼 1 2	所属学部の都合により担当者変更及び、受講生数に合わせ教員1名減(28)
	物理化学実習B	2後	1				1					兼 3	
	有機化学実習A	2前	1				1					兼 9 3	所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のため担当者増(28)
	有機化学実習B	2前	1				1					兼 9 3	所属学部の都合により担当者変更及び、教育課程充実のため担当者増(28)
	免疫学・組織学実習	3後	1									兼 4	
	生薬・天然物化学実習	3前	2									兼 4	
	微生物学実習	3後	1									兼 5	
	生化学・分子生物学実習	3前	2			1			1			兼 2	
衛生化学実習	3後	1			1		1				兼 2		
薬理学実習	3前	1			1						兼 4		
薬剤学実習	3後	1						1			兼 4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	医薬品化学実習	3後		1			1					
	卒業研究A	3後	2			4	3					
	卒業研究B	4通	4			4	3					
自由科目	日本語Ⅶ (アカデミック日本語a)	2・3・4前			1						兼	1 留学生対象
	日本語Ⅶ (アカデミック日本語b)	2・3・4後			1						兼	1 留学生対象
	日本語Ⅶ (キャリア日本語a)	2・3・4前			1						兼	1 留学生対象
	日本語Ⅶ (キャリア日本語b)	2・3・4後			1						兼	1 留学生対象
	日本語Ⅶ (文章表現a)	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	日本語Ⅶ (文章表現b)	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	日本語Ⅶ (読解a)	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	日本語Ⅶ (読解b)	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	日本語Ⅶ (聴解口頭a)	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	日本語Ⅶ (聴解口頭b)	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	科学技術日本語Ⅰ	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	科学技術日本語Ⅱ	未開講 1+2+3+4前			1						兼	1 留学生対象 履修希望者がいなかったため未開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(27)
	単位互換科目	1・2・3・4			1						兼	1
単位互換科目	1・2・3・4			2						兼	1	
単位互換科目	1・2・3・4			4						兼	1	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
49	188	15	252	49	170	15	234	
				[0]	[Δ18]	[0]	[Δ18]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
 ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし	-	-	-	-	-
2	該当なし	-	-	-	-	-
3	該当なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	平和学Ⅰ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
2	平和学Ⅱ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
3	平和学Ⅲ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
4	平和学Ⅳ（海外留学プログラム）	3	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
5	平和学Ⅴ（海外留学プログラム）	5	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
6	環境と人間Ⅰ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
7	環境と人間Ⅱ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
8	環境と人間Ⅲ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
9	環境と人間Ⅳ（海外留学プログラム）	1	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
10	環境と人間Ⅴ（海外留学プログラム）	2	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
11	環境と人間Ⅵ（海外留学プログラム）	3	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
12	環境と人間Ⅶ（海外留学プログラム）	5	1・2・3・4後	一般	選択	全学の海外留学科目の再編による、科目の廃止(28)
13	日本の社会	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
14	日本の文化	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
15	日本の経済	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
16	日本の経営	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
17	日本の自然	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
18	日本の科学技術	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
19	日本事情特殊講義	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
20	日本事情入門Ⅰ	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
21	日本事情入門Ⅱ	2	1・2・3・4後	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
22	日本語学Ⅰ	2	2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
23	日本語学Ⅱ	2	2・3・4後	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
24	留学生数学Ⅰ	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
25	留学生数学Ⅱ	2	1・2・3・4後	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
26	留学生物理Ⅰ	2	1・2・3・4前	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)
27	留学生物理Ⅱ	2	1・2・3・4後	一般	選択	全学の留学生科目の再編による、科目の廃止(28)

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

全学での海外留学プログラムおよび留学生科目の再編に伴い、科目を廃止した。しかし再編のための廃止であり、廃止した科目を統合し、新たな科目として開講するため、大きな影響はないものと考えられる。周知にあたっては学修要覧等で周知を図ったが、問い合わせ等もなく、大きな影響がなかったと考えられる。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

未開講科目と廃止科目の計	=	0.10
設置時の計画の授業科目数の計		

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大阪いばらきキャンパス 地積更正による面積増 6,790.14㎡増(28) 究論館 2,441.65㎡増 大阪いばらきキャンパス(OIC) 91,495.86㎡増(27) OICフィールド 9,072㎡増(27) 衣笠キャンパス隣接地 321.63㎡増(28) 旧西川邸 325.88㎡増 位置指定道路229.55㎡増、その他からOIC分を校舎敷地および運動場用地へ(27)		
	校 舎 敷 地	920,840.79㎡ 914,530.65㎡ 820,593.14㎡	0㎡	0㎡	920,840.79㎡ 914,530.65㎡ 820,593.14㎡			
	運 動 場 用 地	93,310.74㎡ 84,238.74㎡	0㎡	0㎡	93,310.74㎡ 84,238.74㎡			
	小 計	1,014,151.53㎡ 1,007,841.39㎡ 904,831.88㎡	0㎡	0㎡	1,014,151.53㎡ 1,007,841.39㎡ 904,831.88㎡			
	そ の 他	389,585.86㎡ 389,264.23㎡ 476,719.26㎡	0㎡	0㎡	389,585.86㎡ 389,264.23㎡ 476,719.26㎡			
合 計	1,403,737.39㎡ 1,397,105.62㎡ 1,381,551.14㎡	0㎡	0㎡	1,403,737.39㎡ 1,397,105.62㎡ 1,381,551.14㎡				
(2) 校 舎	専 用	534,329.59㎡ 519,744.38㎡ 402,184.48㎡	0㎡	0㎡	534,329.59㎡ 519,744.38㎡ 402,184.48㎡	平井嘉一郎記念図書館 14,585.21㎡増(28) 究論館3,693.85㎡増、トリシア 6,578.60㎡増、ハイリック9,803.15㎡増、危険物倉庫 98.82㎡増、OIC 97,385.48㎡増(27)		
	(402,184.48㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(402,184.48㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	122室 95室	演 習 室 515室 513室 411室	実験実習室 768室 791室 688室	情報処理学習施設 41室 40室 32室	大学全体 教室： イーストウイング、ウエストウイング、サイエンスコア、クリエイションコアの改修工事に伴い演習室増、実験実習室増、情報処理学習施設増(28) 究論館、トリシア、ハイリック、OIC建設による増(27) 職員： 従事職員数の変更によるもの。(28) 従事職員数の変更によるもの。(27)		
	補 助 職 員 12人 補 助 職 員 5人 (補 助 職 員 30人)	補 助 職 員 58人 補 助 職 員 46人 (補 助 職 員 48人)						
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室 数			29室			
	薬学部 創薬科学科	8 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	薬学研究科と共用 図書・雑誌・視聴覚資料の増加分は新規購入による。電子ジャーナルの減少分は契約タイトル数の変更による。(28)
	薬学部 創薬科学科	20,099 [2,894] 19,467 [2,894] -(19,467 [2,894])	6,281 [6,136] 6,126 [6,024] -(6,281 [6,136])	6,148 [6,026] 6,114 [6,023] -(6,148 [6,026])	497 (497)	- (-)	- (-)	
	計	20,099 [2,894] 19,467 [2,894] -(19,467 [2,894])	6,281 [6,136] 6,126 [6,024] -(6,281 [6,136])	6,148 [6,026] 6,114 [6,023] -(6,148 [6,026])	497 (497)	- (-)	- (-)	

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
	44,148.91㎡ 38,093.64㎡ 29,616㎡		5,443席 5,330席 4,220席		4,459,000冊 3,871,844冊 3,186,194冊		図書館移転にともなう増床等。(28) 新キャンパス図書館開設。(27)	
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	22,961.61㎡ 15,120.14㎡		柵野室内練習場 鉄骨造鋼板葺平屋建 2,025 m				OIC 7,841.47㎡増(27)	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は理工学研究所の経費を記載している。 図書購入費には、電子ジャーナル、データベース等を含む。
		教員1人当り研究費等	3,410千円	3,436千円	図書購入費	0千円	1,644千円	
	共同研究費等	24,767千円	25,140千円	設備購入費	0千円	2,574千円	10,280千円	学費改定のため(28)
	学生1人当り納付金	第1年次 1,921千円 1,890千円	第2年次 1,781千円 1,750千円	第3年次 1,781千円 1,750千円	第4年次 1,781千円 1,750千円	第5年次 一千円	第6年次 一千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。						

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	立命館大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
法学部 法学科	4	790	—	3,160	学士（法学）	1.12	昭和23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1		
経済学部 経済学科	4	535	—	2,140	学士（経済学）	1.08 1.07	昭和23年度 平成18年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号		
国際経済学科	4	200	—	800	学士（経済学）	1.11		同上		
経営学部 経営学科	4	610	—	2,440	学士（経営学）	1.10 1.09	昭和37年度 平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号		
国際経営学科	4	150	—	600	学士（経営学）	1.13		同上		
産業社会学部 現代社会学科	4	900	—	3,600	学士（社会学）	1.05	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1		
現代社会専攻	4	840	—	3,360	学士（社会学）	1.05	平成19年度	同上		
メディア社会専攻	4						平成19年度	同上		
スポーツ社会専攻	4						平成19年度	同上		
人間福祉専攻	4						平成19年度	同上		
子ども社会専攻	4	60	—	240	学士（社会学）	1.07	平成19年度	同上		
文学部 人文学科	4	905	—	4,220	学士（文学）	1.08	平成16年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	平成28年度入学定員減（△200人）	
理工学部 電気電子工学科	4	142	3年次12	592	学士（工学）	1.08 1.07	昭和24年度 平成16年度 平成6年度 平成8年度 平成8年度 平成12年度 平成12年度 平成16年度 平成16年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成24年度より学生募集停止	
機械工学科	4	160	3年次10	660	学士（工学）	1.05		昭和24年度		同上
都市システム工学科	4	84	3年次2	340	学士（工学）	1.10		平成16年度		同上
環境システム工学科	4	69	3年次2	280	学士（工学）	1.10		平成6年度		同上
電子光情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—		平成8年度		同上
ロボティクス学科	4	83	3年次6	344	学士（工学）	1.16		平成8年度		同上
数理科学科	4	90	—	360	学士（理学）	1.04		平成12年度		同上
物理科学科	4	80	—	320	学士（理学）	1.07		平成12年度		同上
電子情報工学科	4	94	3年次8	392	学士（工学）	1.04		平成16年度		同上
マイクロ機械システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—		平成16年度		同上
建築都市デザイン学科	4	70	3年次16	312	学士（工学）	1.13		平成16年度		同上
国際関係学部 国際関係学科	4	305	—	1,220	学士（国際関係学）	1.05	昭和63年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1		

政策科学部									
政策科学科	4	360	—	1,440	学士（政策科学）	1.08	平成6年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
情報理工学部									2年次以降に所属学科が確定することから、1年次については定員で按分して定員超過率を算出
情報システム学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.03	平成16年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
情報コミュニケーション学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.03	平成16年度	同上	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
メディア情報学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.04	平成16年度	同上	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
知能情報学科	4	110	3年次10	450	学士（工学）	1.03	平成16年度	同上	平成28年度3年次編入学定員増（10人）
映像学部									
映像学科	4	150	—	600	学士（映像学）	1.09	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
薬学部									6年制学科 4年制学科
薬学科	6	100	—	600	学士（薬学）	1.04	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
創薬科学科	4	60	—	120	学士（薬科学）	0.83	平成27年度	同上	
生命科学部									
応用化学科	4	80	—	320	学士（理学） 学士（工学）	1.04 1.08	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生物工学科	4	80	—	320	学士（工学）	0.98	平成20年度	同上	
生命情報学科	4	60	—	240	学士（理学） 学士（工学）	1.09	平成20年度	同上	
生命医科学科	4	60	—	240	学士（理学）	1.06	平成20年度	同上	
スポーツ健康科学部									
スポーツ健康科学科	4	220	—	880	学士（スポーツ健康科学）	1.06	平成22年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
総合心理学部									
総合心理学科	4	280	—	280	学士（心理学）	1.13	平成28年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
法学研究科									
法学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（法学）	0.26	昭和25年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（法学）	0.20	昭和28年度		
経済学研究科									
経済学専攻									
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士（経済学）	0.53	昭和25年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（経済学）	0.46	昭和39年度		
経営学研究科									
企業経営専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（経営学）	0.47	昭和41年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（経営学）	0.17	昭和41年度		

社会学研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
応用社会学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（社会学）	0.39	昭和47年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（社会学）	0.79	昭和49年度		
文学研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
人文学専攻									
博士課程前期課程	2	70	—	140	修士（文学）	0.53	平成18年度		
博士課程後期課程	3	20	—	60	博士（文学）	0.71	平成18年度		
行動文化情報学専攻								同上	
博士課程前期課程	2	35	—	70	修士（文学）	0.48	平成26年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（文学）	0.37	平成26年度		
理工学研究科								滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
基礎理工学専攻									
博士課程前期課程		50	—	100	修士（理学） 修士（工学）	0.75	平成18年度		
博士課程後期課程		6	—	18	博士（理学） 博士（工学）	0.61	平成24年度		
電子システム専攻								同上	
博士課程前期課程		180	—	360	修士（工学）	0.58	平成24年度		
博士課程後期課程		8	—	24	博士（工学）	0.29	平成24年度		
機械システム専攻								同上	
博士課程前期課程		140	—	280	修士（工学）	0.89	平成24年度		
博士課程後期課程		11	—	33	博士（工学）	0.51	平成24年度		
環境都市専攻								同上	
博士課程前期課程		80	—	160	修士（工学）	1.03	平成24年度		
博士課程後期課程		15	—	45	博士（工学）	0.15	平成24年度		
総合理工学専攻								同上	
博士課程後期課程		—	—	—	博士（理学） 博士（工学）	—	平成8年度		平成24年度より学生募集停止
国際関係研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
国際関係学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（国際関係学）	0.54	平成4年度		
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（国際関係学）	0.60	平成6年度		
政策科学研究科								大阪府茨木市岩倉町2番150号	
政策科学専攻									
博士課程前期課程	2	40	—	80	修士（政策科学）	0.68	平成9年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（政策科学）	0.37	平成11年度		
応用人間科学研究科								京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
応用人間科学専攻									
修士課程	2	60	—	120	修士（人間科学）	0.67	平成13年度		

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（言語教育情報学）	0.71	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
テクノロジー・マネジメント研究科 テクノロジー・マネジメント専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	70 5	— —	140 15	修士（技術経営） 博士（技術経営）	0.42 1.06	平成17年度 平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
公務研究科 公共政策専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（公共政策）	0.38	平成19年度	京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町8番地	
スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	25 8	— —	50 24	修士（スポーツ健康科学） 博士（スポーツ健康科学）	0.84 1.28	平成22年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
映像研究科 映像専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（映像）	0.40	平成23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
情報理工学研究科 情報理工学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	200 15	— —	400 45	修士（工学） 博士（工学）	0.68 0.46	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生命科学研究科 生命科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	150 15	— —	300 45	修士（理学） 修士（工学） 博士（理学） 博士（工学）	0.81 0.44	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
先端総合学術研究科 先端総合学術専攻 一貫制博士課程	5	30	—	150	博士（学術）	0.23	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	—	9	博士（薬学）	1.21	平成26年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
法務研究科 法曹養成専攻 専門職学位課程	3	70	—	270	法務博士（専門職）	0.42	平成16年度	京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町8番地	平成28年度入学定員減（△30人）
経営管理研究科 経営管理専攻 専門職学位課程	2	80	—	160	経営修士（専門職）	0.58	平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	

大学の名称	立命館アジア太平洋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は 称 号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
アジア太平洋学部 アジア太平洋学科	4	600	年次 人 2年次 12 3年次 18	2,472	学士（アジア太 平洋学）	1.02	平成 12年度	大分県別府市十文字原1丁 目1番	
国際経営学部 国際経営学科	4	600	2年次 22 3年次 31	2,528	学士（経営学）	0.96	平成 12年度	大分県別府市十文字原1丁 目1番	
アジア太平洋研究科 アジア太平洋学専攻								大分県別府市十文字原1丁 目1番	
博士課程前期課程	2	15	—	30	修士（アジア太 平洋学）	0.43	平成 15年度		
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（アジア太 平洋学）	0.66	平成 15年度		
国際協力政策専攻 博士課程前期課程	2	45	—	90	修士（国際協力 政策）	0.41	平成 15年度	同上	
経営管理研究科 経営管理専攻 修士課程	2	40	—	80	修士 （経営管理）	0.64	平成 15年度	大分県別府市十文字原1丁 目1番	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (26年6月)	該当なし	-	-
設置計画履行状況 調 査 時 (28年2月)	該当なし	-	-

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<薬学部 創薬科学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学では、学部・研究科に共通する教学に関わる事項について審議を行うための全学的機関として、教学委員会を設置している。教学委員会は、教学部長が主宰し、各学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席し、毎年度の各学部・研究科の教学上の総括および次年度計画を策定・承認している。ここでは、FD活動についても毎年度の方針に基づく総括、次年度計画をまとめている。本学では、FD活動を「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」と定義している。教育の質的向上のために、各学部・研究科においてFD活動を行うとともに、教学部が主催して教学実践フォーラムや懇談会等を実施し取組を共有している。 2. 全学的には教育開発推進機構（以下「機構」という。）を設置し（「立命館大学教育開発推進機構規程」第2条）、その下に教育・学修支援センター（以下「センター」という）を置いて、学部・研究科の取組みを支援している（同第4条）。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学委員会は隔週月曜日に実施し、全学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席している。（教学委員会規程） 2. 機構は、日常的運営を行うため、教育・学修支援センター会議（「センター会議」）を置いている（立命館大学教育開発推進機構規程第10条、第12条）。 構成員は、教育・学修支援センター長（委員長）、教育・学修支援センター副センター長（副センター長）、教学部副部長（事務局長）、高大連携推進室長、一貫教育部副部長、一貫教育部教育研究・研修センター長、機構所属教員（嘱託講師を除く）、教学部次長、機構長が任命する教職員（以上委員）である。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学委員会（教学委員会規程第2条） <ol style="list-style-type: none"> (1) 教学の基本方針に関する事項（カリキュラム改革、毎年度の開講方針および教学総括等） (2) 学部と研究科に共通する教学および教務事項 等 2. センター会議（立命館大学教育開発推進機構規程第11条） <ol style="list-style-type: none"> (1) 機構およびセンターの活動方針および総括に関する事項 (2) センターが行う事業の基本方針に関する事項 等 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学実践フォーラムの開催 2. FD懇談会の開催 3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施 4. 授業アンケートの実施、分析、授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施 5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有 6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』、紀要『立命館高等教育研究』を通じた実践・授業研究等の共有 7. 教学総括・計画概要の策定、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立

b 実施方法

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・国内外のFDの事例報告、学生の学びの実態調査結果分析、ICT活用事例等の紹介
2. FD懇談会の開催
 - (1) 各学部・研究科・機構のFDに関する取り組みの共有
 - (2) FDに関する国内外の実践の紹介
 - (3) FDに関する要望・意見等の集約を内容にした懇談会
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・教育歴が3年未満の新任教員を対象として、研修会、ガイダンス、オンデマンド講義、ワークショップ、コンサルテーション等を2年間（最長4年間）実施
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・個別授業の授業改善、組織的な教学改善、学生への説明責任を目的として、大学全体で統一した書式により授業アンケートを実施。Webコースツールのアンケート機能も活用する。各授業の中盤にWebコースツールや「コミュニケーション・ペーパー」「インタラクティブシート」等を活用した授業改善に向けた意見交換を実施（希望する教員）
5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
 - ・学生の学びと成長調査（アンケート）設計、実施、分析と教学委員会への報告
6. 『ITL（Institute for Teaching and Learning）News』を通じた実践の共有および紀要『立命館高等教育研究』の発行を通じた実践レポートや授業研究の共有
7. 教学総括・次年度計画概要、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・「教学総括」や「自己点検・評価報告書」作成の支援

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<平成27年度実績>

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・2回開催、のべ約100名参加
2. FD懇談会の開催
 - ・3回開催（副学部長懇談会として実施）
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・4名が修了（内4名が優秀修了者）。修了式には、学長、学部長を含め約20名が参加
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・授業アンケートは毎セメスター、全授業で実施。アンケート回収率は大学全体で40.4%。Web実施が46.7%となっており、授業時間内で回答する時間を確保することで回答率が上がることがわかっており、各学部において取組みを強化することとしている。
5. 学びと成長調査の実施
 - ・2016年度より全学生を対象に毎年度調査を実施することを決定した。
6. 『ITL（Institute for Teaching and Learning）News』を2回発行し、紀要『立命館高等教育研究』を1回発行。
7. 教学総括・次年度計画概要の作成、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・教学総括・次年度計画概要は平成27年度最終の教学委員会にて承認、自己点検・評価報告書はその文書をもとに平成28年度に作成予定である。
 - ・各学部、研究科の要望に応じて教育開発推進機構教員が専門的知見を活かして支援を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 教学実践フォーラムをつうじて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用
2. 先進的な教育実践と学部・研究科固有の組織的なFD活動との連携を促進
3. 教員に期待する教育力量の向上および教育活動の促進
4. アンケート結果の分析をもとに学部での授業改善、教育改善の取組に反映
5. 実施結果の分析による教育内容の改善
6. 教育を取り巻く動向や課題、実践事例の共有と普及、教育に関する理論や実践の研究と成果の発信
7. 毎年度の開講方針に基づく点検・評価、次年度に向けた改善課題の明確化、自己点検・評価活動をつうじた教育内容や方法の改善促進

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・毎年度、各セメスター終盤に実施（授業アンケート）
- ・各セメスターの5～6週目（Webコースツール、「インタラクティブシート」等によるアンケート）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・各授業および分野等で分析し、①各教員には個別分析結果を返却、②学生には結果全体の報告書をホームページに掲載すると同時に各学部・研究科事務室等の窓口で閲覧できるようにしている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

医療人としての薬剤師の質的向上と、その地位の向上を目指した6年制薬学教育課程が着実に成果をあげる一方で、医薬品創製技術・手法の高度化に対応できるハイレベルな創薬研究者の育成が求められており、創薬科学の重要性は益々増大している。こうした社会的ニーズに応えるため、立命館大学薬学部では平成27年度より従来の「薬学科（6年制）」に加え「創薬科学科（4年制）」を新たに開設した。

創薬科学科では、「薬を中心に据えた」人の健康にかかわる自然科学を基盤とし、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術を習得させるとともに、大学院進学を念頭に置いた研究指導により、最先端の医薬品創製と医療に貢献できる薬学研究者の養成を行う。

上記の設置趣旨や目的を達成するべく、以下の取組みを行った。

1. 入学者確保

設置認可を受けてから、ホームページや入試ガイドにおいてアドミッション・ポリシーを明示して広報を行い、一般入試および特別入試による選抜を行った結果、平成27年度の入学者数は46名、定員充足率は76.7%であった。平成28年度はパンフレット配布や高校訪問等、積極的な働きかけを行った結果、入学者数は54名となり、定員充足率は90.0%と改善が見られた。次年度は、今年度の結果を踏まえ、種々の広報活動を充実させさらなる定員充足に努めていく。

2. オリエンテーション

新入生に対して4月にオリエンテーションを実施し、人材育成目的、教育目標、教育課程編成方針を説明した上で、薬学部創薬科学科のカリキュラムや履修方法について説明を行った。また、在学生に対しても3月末にガイダンスを実施し、カリキュラムや履修方法について再度説明を行った。

3. 初年次教育

1回生配当科目である「創薬科学基礎演習」において、薬ができるまでの流れを学ぶとともに、実際の研究現場である製薬企業や研究所を訪問し、早期から研究者としての意識醸成を図るとともに、「創薬研究概論」において医薬品創製の基礎となる知識を習得し、創薬研究活動全般への理解を深めた。

4. 専門英語教育

立命館大学生命科学部・薬学科で実施されており、大きな成果を上げているプロジェクト発信型英語教育プログラムを創薬科学科でも導入し、実践的な英語コミュニケーション能力の醸成を図る。平成27年度は、将来的な卒業論文や修士論文の英語発表を見据え、その基礎となる英語能力の向上を図った。平成28年度はそれらの能力をさらなる向上を図る。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「2016年度自己点検・評価報告書」を平成28年12月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開（平成28年12月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成30年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(2016年 7月 29日)